

大盛況を支えた縁の下の力持ち

万国博記念乗車券 (草津市蔵・山口正コレクション)

大阪では55年ぶりとなる国際博覧会、大阪・関西万博が、4月13日から開催されています。これにちなんで今回は、昭和45年(1970)に開催された大阪万博について光をあてたいと思います。



大阪万博は、国内外から数多くのパビリオンが参加し、3月15日から9月13日までの半年間で入場者は6,400万人以上でした。これほど多くの入場者はどのようにして訪れたのでしょうか。その背景には、万博に合わせて開業された臨時駅の設置がありました。当時の交通事情を1枚の記念乗車券を手掛かりに考えていきます。

今回紹介する記念乗車券は、市が寄贈を受けた8,000点以上の鉄道関係資料「山口正コレクション」のうちの1枚です。乗車券は「万国博記念乗車券」で、日本国有鉄道(国鉄)によって発行されたものです。

乗車券のデザインは上部に、シンボルであった太陽の塔の他、オーストラリア館など各国のパビリオン、万国博モノレールやレインボーロープウェイなど、当時の最新技術を用いた施設が描かれています。

下部が切符になっていて、経路は国鉄津田駅(現在のJR津田駅、枚方市)から環状線を経由し、大阪駅で阪急電車梅田駅(現在の大阪梅田駅)に乗り、万国博西口駅に到着するルートでした。

万国博西口駅は、昭和44年(1969)11月に当時の南千里駅と北千里駅の間に開業し、会期中、約920万人が利用しました。多くの人々の輸送のため、万国博西口駅につながる路線には臨時ダイヤが組まれ、特に1日の利用者数が83万人を超えた9月5日には、深夜2時まで運行を延長しました。

このように盛況を支えた万国博西口駅でしたが、会期終了後昭和45年9月14日に臨時駅の役目を終え廃止となりました。

(令和7年5月・草津宿街道交流館 八田 将史)